

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番 八長調 op.26

約27分



Sergei Prokofiev: Piano Concerto No.3 in C major, op.26

第1楽章 アンダンテ – アレグロ Andante - Allegro

第2楽章 主題と変奏:アンダンティーノ Tema con variazioni : Andantino

第3楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo Allegro ma non troppo

休憩 20分

Intermission

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「火の鳥」(1910年原典版)

約45分

Igor Stravinsky: L'oiseau de feu (The Firebird)<Original 1910 Version>

導入部 Introduction

第1場 Scene I

魔王カスチェイによる魔法のかかった庭 Night. Kastchei's Enchanted Garden

火の鳥の出現と、これを追うイワン・ザレヴィッチの登場 The Firebird Enters, Pursued by Ivan Tsarevich

火の鳥の踊り The Firebird's Dance

王子は火の鳥を捕らえる Ivan Tsarevich Captures the Firebird

火の鳥の嘆願 The Firebird Begs to Be Released

魔法にかけられた13人の王女たちが出現 Entrance of the Thirteen Enchanted Princesses

黄金のリングで戯れる王女たち The Princesses Play with the Golden Apples (Scherzo)

イワン王子の突然の出現 Ivan Tsarevich Appears

王女たちのホロヴォード (Rond) The Princesses' Khorovod (Round Dance)

夜明け Daybreak

王子、カスチェイの城に突入 Ivan Tsarevich Enters Kastchei's Palace

怪しげな騒ぎ、番人の怪物たちの登場。王子は捕まる Magic Carillon, Appearance of Kashchei's Monster Guardians and Capture of Ivan Tsarevich

不死の魔王カスチェイの登場 The Entrance of Kastchei the Immortal

王子とカスチェイの問答 Dialogue Between Kastchei and Ivan Tsarevich

王女たちのとりなし The Princesses Plead for Mercy

火の鳥の出現 The Firebird Enters

火の鳥の魔法にかけられたカスチェイの手下たちの踊り Dance of Kastchei's Retinue under the Firebird's Magic Spell

カスチェイ一党の地獄の踊り Infernal Dance of Kastchei and His Subjects Under the Firebird's Magic Spell

火の鳥の子守歌 The Firebird's Lullaby

カスチェイの目覚め Kastchei Awakens

カスチェイの死、深い闇 Kastchei's Death

第2場 Scene II

カスチェイの城と魔法の消滅。石にされていた騎士たちの復活と大団円

Kastchei's Spell Is Broken, His Palace Disappears, and the Petrified Knights Return to Life. General Thanksgiving ...

指揮

井上 道義 Michiyoshi Inoue, Conductor

ピアノ

松田 華音 Kanon Matsuda, Piano (★演奏曲)

管弦楽

兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

*演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

「燃えよ道義 炎の音楽」と題された今回の特別演奏会。ももとは前半にスクリャービンの《交響曲第5番「プロメテウス - 火の詩」》が予定されていました。ギリシア神話で火を人間に与えた神を崇めた異色の作品です。それが、新型コロナウイルス感染症の拡大による入国制限のためにソリストが変更されることになり、曲目変更が行われたために、「火」の曲は後半のストラヴィンスキーの《火の鳥》だけとなったのです。

とはいえ、同じ20世紀の作品の中から意味のある組み合わせが選ばれました。屈指の名曲であるプロコフィエフの《ピアノ協奏曲 第3番》を松田華音が弾くとなれば、これは聴き逃せません。タイトル通りに井上道義のタクトは燃え盛って、私たち聴衆を捉えてやまない音楽が響き始めるはず。さあ幕が上がります。

プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第3番 八長調 op.26

セルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953)は、20世紀のソヴィエト連邦(ソ連)時代のロシアの作曲家。この時代を生きたロシアの作曲家は誰もが、ロシア革命とその後のソ連の社会体制に翻弄されました。プロコフィエフもその例に漏れません。1918年にロシア革命の混乱を避けてロシアを出国し、日本を経て、アメリカへと渡ります。その後パリにも住むのですが、1936年になってソ連に戻り、スターリンと同じ日にモスクワで亡くなっています。その音楽は、ひんやりと吹き抜ける冷風のようにメロディが奏でられる中に、さり気なく大胆な響きが配置されていて、この時代のモダニズムの気運があらわれます。

《ピアノ協奏曲 第3番》は1921年(30歳)にフランスで書き上げられました。まさに祖国を離れた時期に書かれた作品となります。自分が弾くためのレパートリーを開拓するという意図もありました。1921年12月16日にアメリカのシカゴで初演。独奏者はプロコフィエフ本人でした。

3つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉はおもむろにメランコリックなクラリネットによる序奏で始まります。木管楽器がそろったところで、ギアが切り替えられて音楽が駆け出します。独奏ピアノとオーケストラのそれぞれの楽器が千変万化して絡み合い、小粋な響きが続きます。〈第2楽章〉は変奏曲の形で書かれていま

す。この作品で最初に手がつけられた部分で、ペテルブルク音楽院に在籍していた1913年のこととされています。主題が5つの変奏へ多様な移ろいを聴かせます。〈第3楽章〉では独奏ピアノとオーケストラの対話が多彩に繰り広げられ、最後は両者の駆け足でのゴールイン。冒頭の主題が日本舞踊の「越後獅子」の音楽に似ていると言われてきましたが、プロコフィエフ自身は特に言及しておらず、安易に結びつけることはできません。

楽器編成

独奏ピアノ、フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、ティンパニ、大太鼓、シンバル、カスタネット、タンブリン、弦楽5部

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「火の鳥」(1910年原典版)

「火の鳥」とはいえ、炎に包まれた不死鳥とは少しイメージが異なります。ロシアのおとぎ話がもとになった物語が、20世紀音楽の新たな息吹を施されて、唯一無二の作品が生まれました。

イーゴル・ストラヴィンスキー(1882-1971)はロシア生まれで、20世紀の最も重要な作曲家の一人です。先に演奏された9歳年下に当たるプロコフィエフにはソ連の作曲家という表現を使うのですが、ストラヴィンスキーはソヴィエト連邦とは結びつきません。これは1917年のロシア革命時には、すでにスイスに居住していて、活動の本拠をロシアの外に移していたことに、その理由があります。主に作品を発表していたのはパリでした。またハーバード大学での講義をきっかけに1940年以降はアメリカに留まり、この地で終焉を迎えます。

《バレエ音楽「火の鳥」》は1910年(28歳)に書き上げられたストラヴィンスキーの出世作です。数々の傑作を生んだバレエ興行師、セルゲイ・ディアギレフがリヤードフの代役として、当時は無名の作曲家だったストラヴィンスキーに、自身が主宰するバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)のための作品を委嘱したのです。1909年にディアギレフはストラヴィンスキーの才能に興味を抱いていて、すでにい

くつかの編曲を依頼しており、その仕上がりを確かめた上でのことでした。1910年6月25日にパリのオペラ座で行われたバレエ・リュスの公演で初演されます。

火の鳥を助けて魔法の羽を手に入れたイワン王子が、捕われていた王女を救い出して結婚するという物語。バレエ音楽自体は、4管編成のオーケストラで書かれています。ハープは3台使われ、ピアノとチェレスタが加わって、バンダ(別動隊)も必要になる大編成です。今日では後に編まれた組曲版がよく取り上げられるのですが、原典版とも言われるバレエの全曲版は、演奏時間が45分以上かかる大作になっています。

導入部と第1場、第2場から構成されていて、音楽は続けて演奏されます。数秒で終わってしまう3小節ほどしかない部分に名前が付けられていたりしますが、大まかに全曲を眺めてみましょう。ファゴットが魔界を、ホルンが王子、フルートが火の鳥のように、それぞれの楽器が形作る響きを手がかりに音楽をたどっていくと、物語が浮かび上がります。

不気味な雰囲気(導入部)に続いて、ティンパニと大太鼓、チェロによる5発の打ち込みで誘われる〈魔王カステイによる魔法のかかった庭〉で幕が上がります。〈火の鳥の出現と、これを追うイワン・ザレヴィッチの登場〉では木管楽器やヴァイオリンで、鳥が羽ばたくような音がしています。〈火の鳥の踊り〉でも激しく飛び回っている様子が窺えます。〈王子は火の鳥を捕らえる〉で火の鳥は捕獲されました。最後に聴こえるヴィオラのソロは火の鳥の声です。〈火の鳥の嘆願〉で、火の鳥は体から黄金の羽根を一本抜いて王子に差し出します(トランペットのソロ)。〈魔法にかけられた13人の王女達が登場〉では乙女を従えた王女が現れました。〈黄金のリンゴで戯れる王女達〉の軽やかな踊りは、木から落としたリンゴを投げ合う場面。ホルンのソロで〈イワン王子の突然の出現〉。〈王女達のホロヴォード(ロンド)〉ではオーボエの吹くメロディのもと、王女たちは踊り始めます。トランペットがバンダから鋭く響くと〈夜明け〉です。許された時間が終わったことを告げる合図なのです。王女たちは再び城へと帰っていきました。〈王子、カステイの城に突入〉で音楽が高まり、王子は王女たちを助けるために城に入ります。〈怪しげな騒ぎ、番人の怪物たちの登場。王子は捕まる〉と言うように、そうも簡単に事は運びません。〈不死の魔王カステイの登場〉に続いて、〈王子とカステイ

PROGRAM NOTE

の問答〉で王子はカステイと渡り合います。シンバルが響いて、羽音が聴こえたら〈火の鳥の出現〉です。王子を守りに戻ってきました。〈火の鳥の魔法にかけられたカステイの手下達の踊り〉そして〈カステイ一党の、地獄の踊り〉と、激しい響きの中で、魔王たちは疲れ果てて倒れてしまいます。〈子守歌〉ではファゴットが朗々とメロディを奏でます。続いて、ファゴット群がうごめく〈カステイの目覚め〉で、魔王が気がつきましたが、王子はカステイの魂が入った卵を叩き割って、絶命させます。〈深い闇〉を経て、第2場へ続きます。〈カステイの城と魔法の消滅。石にされていた騎士達の復活と大団円〉は圧巻のフィナーレ。弦楽器がそよぐ響きの中でホルンが耳に残るメロディを奏で、その後はオーケストラ全体に響きが広がって物語が締めくくられます。

楽器編成

フルート3(ピッコロ持替)、ピッコロ、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン、クラリネット3(E♭クラリネット持替)、バス・クラリネット、バスーン3(コントラ・バスーン持替)、コントラ・バスーン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、太太鼓、シンバル、タムタム、スネア・ドラム、グロックンシュピール、シロフォン、トライアングル、タンブリン、チェレスタ、ピアノ、ハープ3、弦楽5部
※バンダ:ワーグナー・チューバ4、トランペット3、鐘

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。
※音や警報音の鳴る機器(補聴器、アラーム付時計等)をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意ください。
※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。
※演奏中の会話、客席内でのご飲食はご遠慮ください。

新型コロナウイルス感染防止に関するお願いとお知らせ

- ・必ず指定されたお席でご鑑賞ください。
- ・ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。(マウスシールド不可)
- ・ブラボーなどの声援や、大きな声での会話はお控えください。
- ・途中で退出されますと、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。
- ・終演時は、分散してのご退場にご協力ください。
- ・客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。

当センターウェブサイトより、アンケートへのご協力をお願いいたします。右記QRコードを読み取って公演カレンダーへアクセスしてください。
(各公演翌日から1ヶ月間)



「兵庫県コロナ追跡システム」

をぜひご利用ください。
館内掲示のポスターよりQRコードを読み取ってご登録ください。